

1 はじめに

3年次生がこれまで取り組んできた課題研究(一人一研究)の経験を生かし、2年次生の課題研究Ⅱにおける研究ポスターに助言を与えるかたちで、2年次生がよりよい課題研究に取り組めるようにすることを目的としている。3年次生にとっても探究プロセスを振り返ることとなる。

2 仮説

栃高には下級生が上級生の背中を見て育つ土壌がある。これをSSH事業に利用することは本校らしい行為である。また、その効果は、即効性こそないものの、人間的価値の拡大として双方に現れることが経験的に予測できる。

2年次生は、3年次生からの新しい視点との出会いの機会を得ることとなるうえ、次年度は自分たちが下級生の課題研究に助言するという意識をもつこととなる。それらが自身の課題研究の完成度を高め、ひいては栃高生としてのより深い自覚の芽生えも期待できるのではないかと考える。

3年次生は、助言の文言を吟味する際に、昨年度の課題研究を、その成否を含めて、あらためて咀嚼し振り返らざるを得ない。これはメタ認知の機会となり、また課題研究の価値を再認識する機会にもなる。さらには大学進学後の学習環境等の変容に対する準備の一助となるのではないかと考えられる。

3 活動の流れ

20日(木)

- ① 裏面で所属班を確認し、各班の前半グループ、後半グループで班長(進行役)を選出。
- ② グループで助言を行う2年次生の「研究ポスター」と「助言シート」のセットを準備。

ポスターデータの保存場所

R6 栃高3学年>R6 課題研究Ⅲ>2年生ポスターデータ>各ゼミのフォルダ

【個人作業 8分×4~5人=計32~40分程度】

ポスターをギガタブで見ながら助言を考える。

- ③ 別紙資料(B4)を参照しながら、各自がポスターの内容を吟味する。
- ④ 吟味したポスターについて、アドバイスシートにコメント等を記入する。
※後輩たちが、助言によってよりよい研究となるように建設的意見をだす。
※班長は時間内に終わるように、また早く終わらないように時間を管理する。

(時間いっぱい使って2年生がより良い研究を前向きに出来るようなアドバイスや、実験の実施に関するアドバイスを考えうる限り提供する。2年生のポスターを叩くのが目的ではない。)

27日(木)

対面で助言シートの内容を直接アドバイスや質問する。

5人で5つの研究を良くする！
議論は真摯に、コメントは紳士に。